

田中英道著「日本国史哲学—世界最古の国の新しい物語」^{ヒストリー} 育鵬社 2018年6月11日発行を読む

寺子屋の先生は三人に一人が女性、教育程度が高かった江戸の人々

1. (1) 社会を安定させた基盤としては、江戸時代の教育の普及を挙げなければなりません。
(2) 国民教育は明治以後、学校制度ができてからだといわれますがそうではありません。江戸時代の教育の普及は大変なものでした。寺子屋といわれるものがそれです。当時は「手習」「手跡指南」「筆道稽古所」などといわれていました。こうした学校は江戸時代を通じて全国に一万六千五百六十校あったといえます。
(3) 規模は小さいもので二十～三十人、都市では百人を超えるものもありました。人々は実に教育熱心だったのです。
2. (1) 先生を務めたのは、最初は僧侶が多かったのですが、都市では下級武士、それに禄を離れて浪人になった武士も教えるようになりました。元禄期になって庶民教育が広まると、教養のある町人も教えるようになりましたが、注目すべきなのは女性の先生が増えてきたことです。江戸では三人に一人は女性の先生だったといわれます。それだけ教養を積んだ女性がいたということです。
(2) 生徒の親は入学金（束修）と月謝（月並銭）を払い、正月や盆暮れ、節句にはお礼を出すのが習わしでした。入学の時期は決まっていませんでしたが、江戸では二月の最初の「丑の日」に入学する習慣ができてきました。入学年齢も同様に決まっていなくて、習いたいときに通い出せばいいのですが、だいたいは七～八歳が多かったようです。いまの学齢と同じようなものだったのです。
(3) 教科書は「往来物」といわれました。変わった呼び方ですね。これは手紙の書き方が基本になっていたことによります。手紙はこちらから出せば返事がくるし、手紙をもらったら返事を書きます。つまり往来します。それで「往来物」というわけです。
(4) 手紙の書き方の手本は平安時代末からありました。江戸時代には七千種あったといえます。読み書き、算盤が中心で、地理、歴史、武術も教えられました。
3. (1) 授業は毎日行われました。朝六～八時ごろからはじまり、午後三時に終わるのが普通でした。机には紙、筆、墨、硯、文鎮、水桶と毛筆の道具が置かれ、先生が手本を与えて、それを繰り返し書いて覚えるというふうでした。
(2) 教え方は、一つの教室（部屋）の全員が同じものを学ぶというではありませんでした。一室で学んでいても、生徒の年齢はまちまちで進度も違います。一人ひとりの学習の進度に応じて教科書の往来物がそれぞれに与えられ、一人ひとりに指導がなされました。年長者の生徒が年下の生徒に教えるということもありました。
(3) こういう具合ですから、評価もその進み具合によってなされ、画一的なものではありませんでした。

(4)書は、寺子屋だけでなく、師匠の家や料亭などを使って一般に展覧することがよく行われました。

4. (1)庶民教育だけでなく、高等教育も盛んでした。各藩の藩校が全国にあり、それは二百五十五校を数えました。これは主に武士の子弟を対象にしていたが、優秀な町人や農民が入校する道も残されていました。そして、その頂点にあるのが幕府直轄の昌平坂学問所でした。学びたい者はそこを目指して懸命に勉強したのです。

(2)試験は「素読吟味」と「学問吟味」があり、前者は口頭試問で四書五経ししよごきようの暗記、後者は筆記試験で内容の解釈や説明でした。

(3)漢学が柱でしたが、数学、医学、洋学、国学なども教えられました。

5. (1)私学も多く建てられました。中江藤樹の藤樹書院、大坂町人がつくった懐徳堂おがたこうあん、緒方洪庵おがたこうあんの適々齋塾てきてきさいなどが有名です。名高いものだけでも各地に十四校を数えました。

(2)日本人は寺子屋ができる前から教育に熱心でした。江戸時代以前は寺が教育機関の役割を果たしました。寺では仏教に出てくる漢字およびシナ文化を教えました。それによって論理的に物事を考える力がつきました。その力は外国の思想・文化が入ってきたときに理解するのに役立ちました。日本ほど外国の思想・文化をやすやすと消化吸収してしまう国はありません。それは逆に海外の影響を受けやすいということでもあります。優れた理解力が日本の発展に大きく寄与したのは間違いないところです。

(3)日本にやって来た外国人は日本人を見てすぐに教養があることを見抜きました。ですからイエズス会が日本をキリスト教化する戦略を立てるときに考えたのは、教養ある日本人をどう変えるかということでした。イエズス会の宣教師ヴァリニャーノはフィリピンなどを教化した方法とは違うやり方が必要だと考え、セミナリヨ（小神学校）、コレジオ（大神学校）、ノビシャド（修練院）という学校を設置して教育しようとしたのですが、結局根付きませんでした。

(4)それは日本にすでに数々の教育機関があったことが影響したものと考えられます。

P210 ~ 213

<コメント>

田中英道先生の最先端の「日本国史」。江戸時代の教育を支えた「寺子屋」と「藩校」と「私学」は、明治時代の学校制度にそのまま転換され、日本の基礎を築いたと考えられます。

2018年11月15日林明夫記